

GSユアサの中長期戦略について



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
(証券コード：6674)

会社概要

1. 会社概要	4
2. 事業領域	5
3. グローバル展開	6

Vision 2035（長期ビジョン）

1. 2人の創業者	8
2. GSユアサの歩み	9
3. 当社を取り巻く事業環境	10
4. Vision 2035	11
－ 事業の「革新と成長」	12
－ 「革新と成長」のポイント	13
－ 研究開発ロードマップ	14
－ 事業の成長ストーリー	15
5. GYカーボンニュートラル2050	16

第六次中期経営計画（2023～2025年度）の進捗

1. 第六次中期経営計画 方針と施策	18
2. 第六次中期の進捗	19
3. 経営目標	20
4. セグメント別業績	21
－ 自動車電池（国内）	22
－ 自動車電池（海外）	23
－ 自動車電池	24
－ 産業電池電源	26
－ 車載用リチウムイオン電池	29
－ 特殊電池およびその他	32
5. 株主還元	33
6. サステナビリティへの取り組み（マテリアリティ）	34

会社概要

1. 会社概要

- 会社名 **株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション**
※純粋持株会社
- 設立 **2004年4月1日**
※日本電池（1917年設立）とユアサコーポレーション（1918年設立）が経営統合
- 本社 **京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地**
- 資本金 **528億円**
- 連結売上高 **5,629億円**
(2024年3月期)
- 連結従業員数 **12,892名**
(2024年3月末)
- 上場市場 **東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6674）**



代表取締役 取締役社長 阿部 貴志



日本電池 創業者 島津源蔵が
アメリカから輸入した電気自動車
「デトロイト号」

2. 事業領域

自動車をはじめ**5**つのセグメントで事業を展開しています

車載用リチウムイオン電池

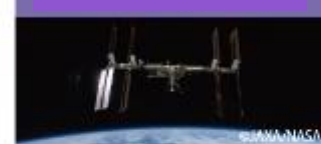


- 環境対応車向けリチウムイオン電池
- 産業用リチウムイオン電池（製造のみ）



提供：海上自衛隊殿

特殊電池およびその他



- 国際宇宙ステーション（ISS）、人工衛星、航空機、潜水艦用などの特殊電池



自動車電池（国内）



- 自動車用鉛蓄電池
- オートバイ用鉛蓄電池



産業電池電源



- 社会インフラ設備の電力バックアップ用電池・電源装置、リチウムイオン電池
- フォークリフト用鉛蓄電池
- 照明機器



特殊電池およびその他

4%

車載用リチウムイオン電池

15%

産業電池電源

19%

自動車電池（国内）

17%

2023年度
売上高
5,629億円

自動車電池（海外）

45%

自動車電池（海外）

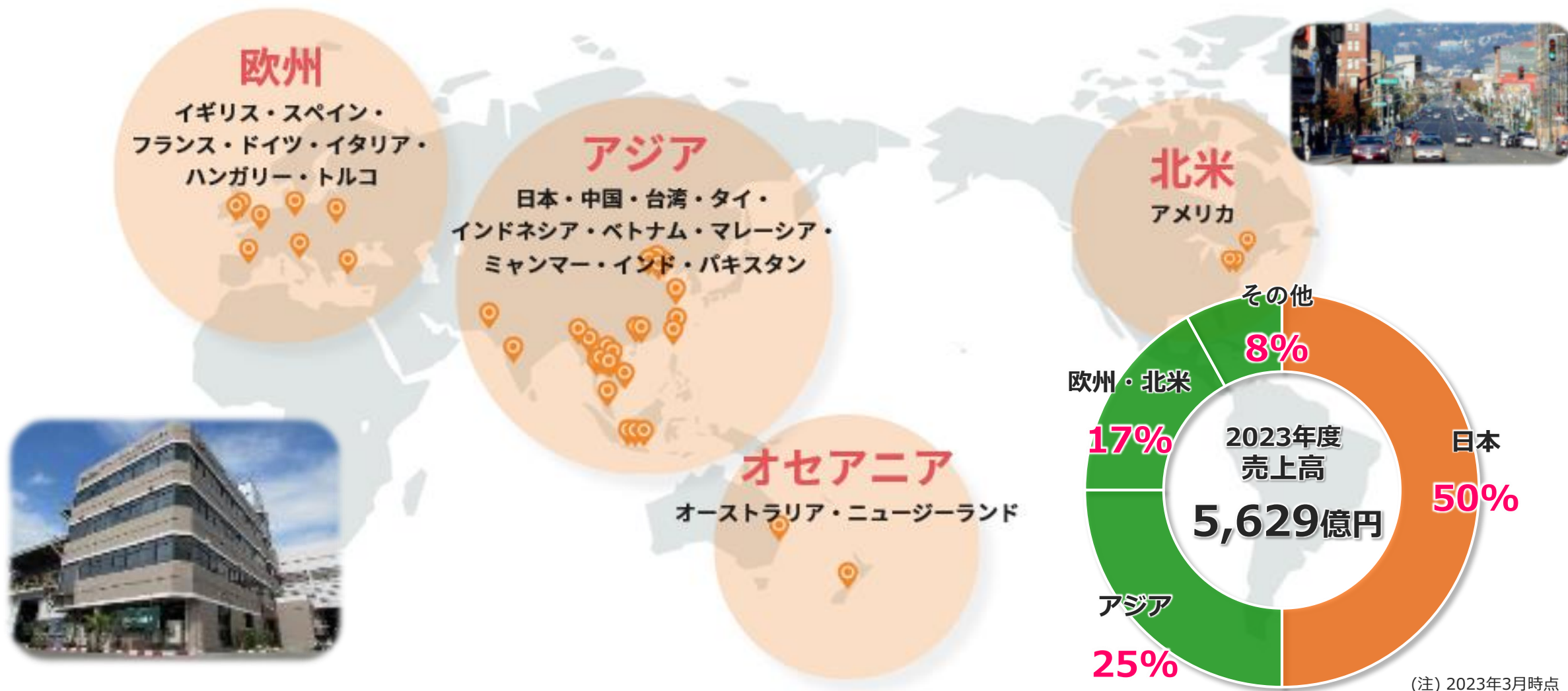


- 自動車用鉛蓄電池
- オートバイ用鉛蓄電池



3. グローバル展開

東南アジアを中心に**19**カ国**37**拠点を事業を展開しています

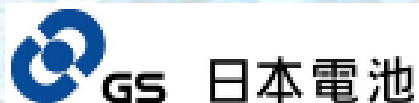


Vision 2035（長期ビジョン）

1. 2人の創業者



日本電池(株)創業者
島津 源蔵



科学の申し子と呼ばれ、
さまざまな発明品を
生み出し、日本の十大
発明家のひとりとして
選ばれた**発明の人**



湯浅電池製造(株)創業者
湯浅 七左衛門



優秀な頭脳と決断力で
湯浅家に新風を吹き込み、
事業拡大を果たし、
企業の近代化を推し進めた
事業の人

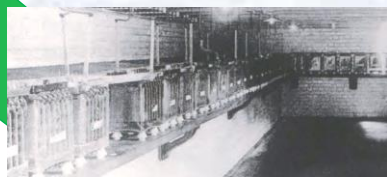
2. GSユアサの歩み

GS (日本電池)



日本電池(株)創業者
島津 源蔵

高品質な製品
開発により、
社会に貢献する
発明家精神



**電力の安定供給、
社会インフラの発展に貢献**

1900年代
予備電源用大容量蓄電池を製造



湯浅蓄電池製造(株)創業者
湯浅 七左衛門

時代に先駆けて
新規事業を
開拓する
チャレンジ精神



自動車産業の発展に貢献

1910年代
自動車用鉛蓄電池の製造開始

YUASA (ユアサ コーポレーション)



三菱自動車「エクリプスクロスPHEV」

EVの新時代を切り拓く

2010年代
三菱向けに
PHEV用リチウムイオン電池を供給



2007年
EV・PHEV用電池の製造販売を行う
リチウムエナジー ジャパンを設立

**日系自動車メーカーの
電動化に貢献**

2010年代
ホンダ向けに
HEV用リチウムイオン電池を供給



ホンダ「FIT HYBRID」



Blue Energy

2009年
HEV用電池の製造販売を行う
ブルーエナジーを設立

2020年代
トヨタ向けに
HEV用リチウムイオン電池を供給



トヨタ自動車「ハリアー」

2004 経営統合

**クリーンエネルギーの
普及に貢献**



2000年代
再生可能エネルギーの
蓄電システムを開発

航空機の発展を支える



2000年代
米ボーイング787向け
リチウムイオン電池システムを受注



**脱炭素社会の実現
に貢献**

2020年代
風力発電向けの
世界最大規模の
蓄電池設備受注

**「深海」から「宇宙」まで
極限環境での安全を支える**



2010年代
国際宇宙ステーションに
リチウムイオン電池を搭載



2010年代
日本初の潜水艦用
リチウムイオン電池を量産

**次の
100年
に向けて**

3. 当社を取り巻く事業環境

GS YUASAを取り巻く周辺環境

モビリティ

- ・ゼロエミッションに向けて電動化が加速
- ・自動運転のレベルが進展
- ・所有から利用への加速（シェアリングなど）

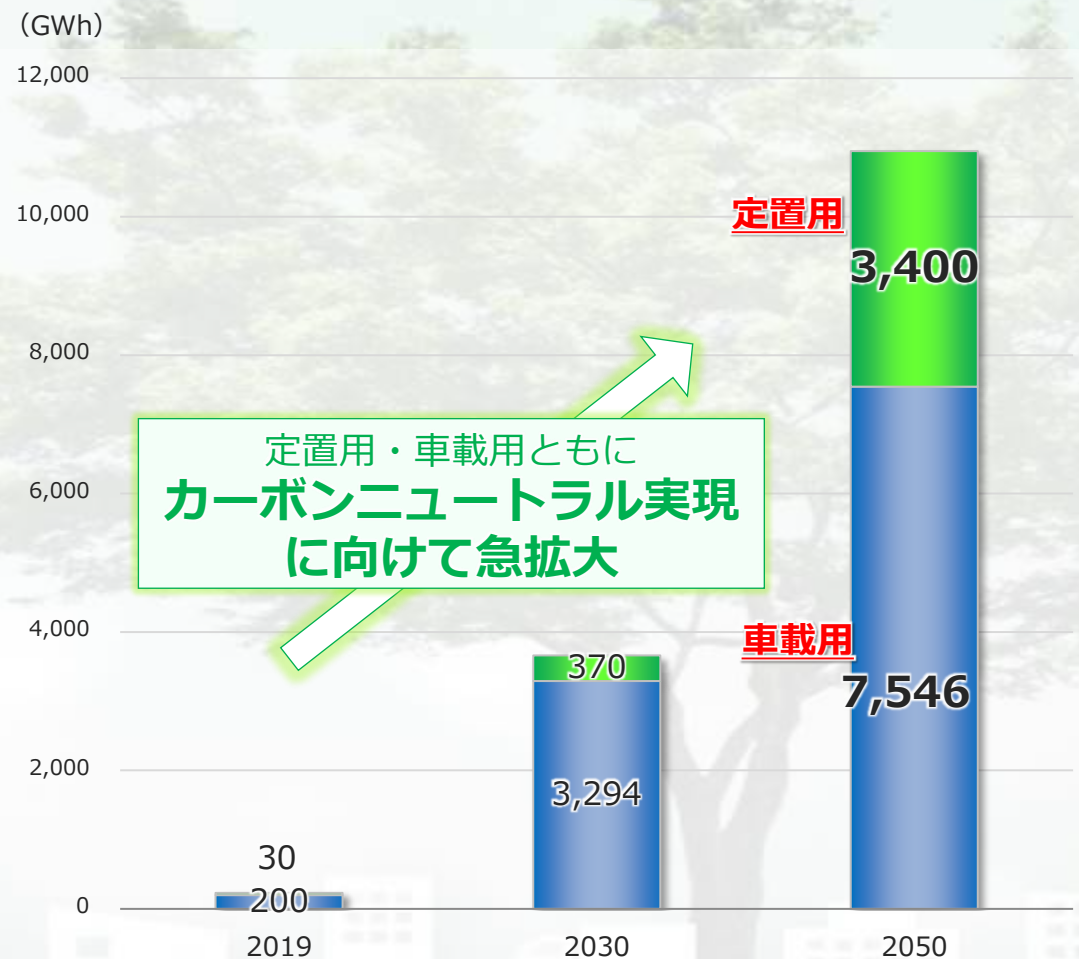
社会インフラ

- ・再生可能エネルギーの導入拡大に伴い、変動抑制や需給調整のための蓄電池の重要性も拡大。エネルギーマネジメントへの要求拡大
- ・電力、情報、通信インフラなどのバックアップの重要性が拡大

特殊電池

- ・宇宙利用の拡大
- ・海洋資源探索の拡大

グローバルでの蓄電池導入予想



出典：IRENA Global Renewables outlook 2020
「Energy Transformation 2050」より当社作成

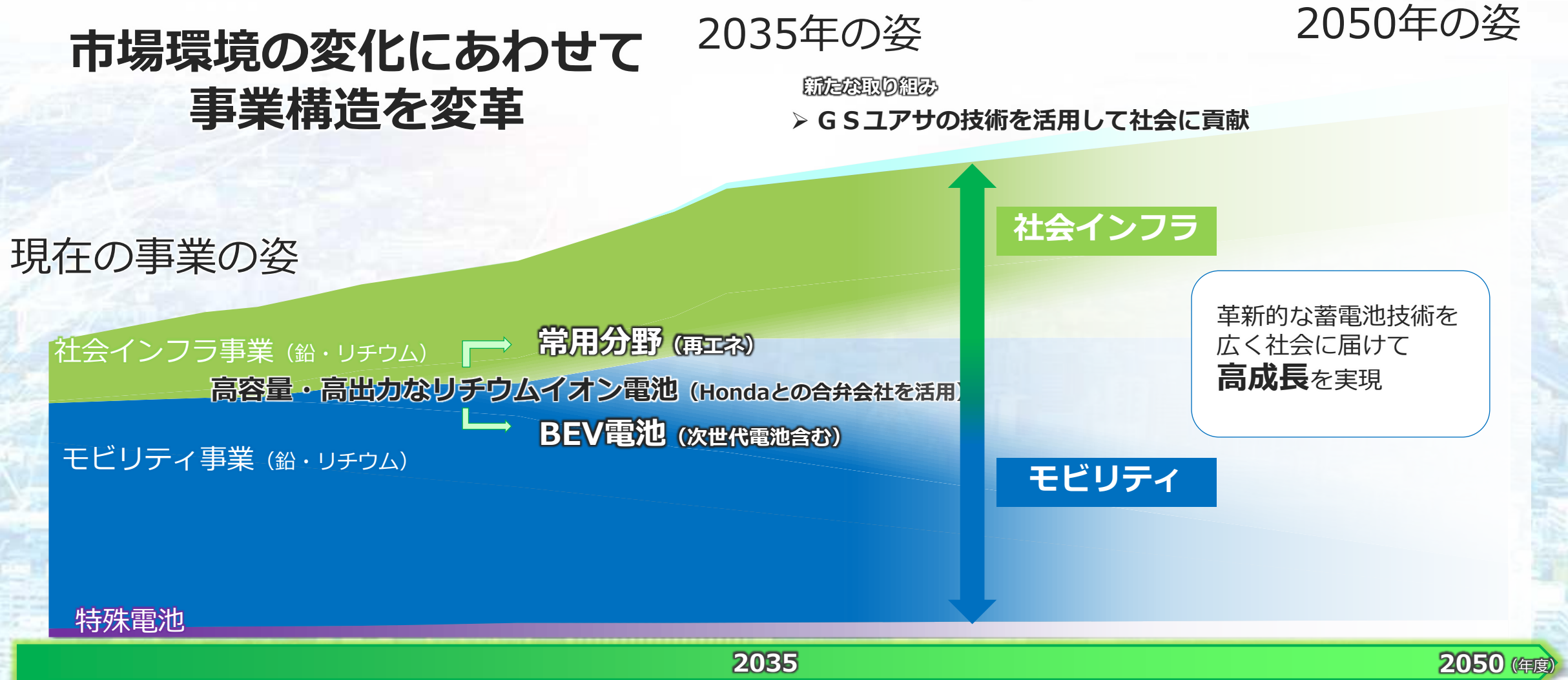
4. Vision 2035

2035年のGSユアサのありたい姿

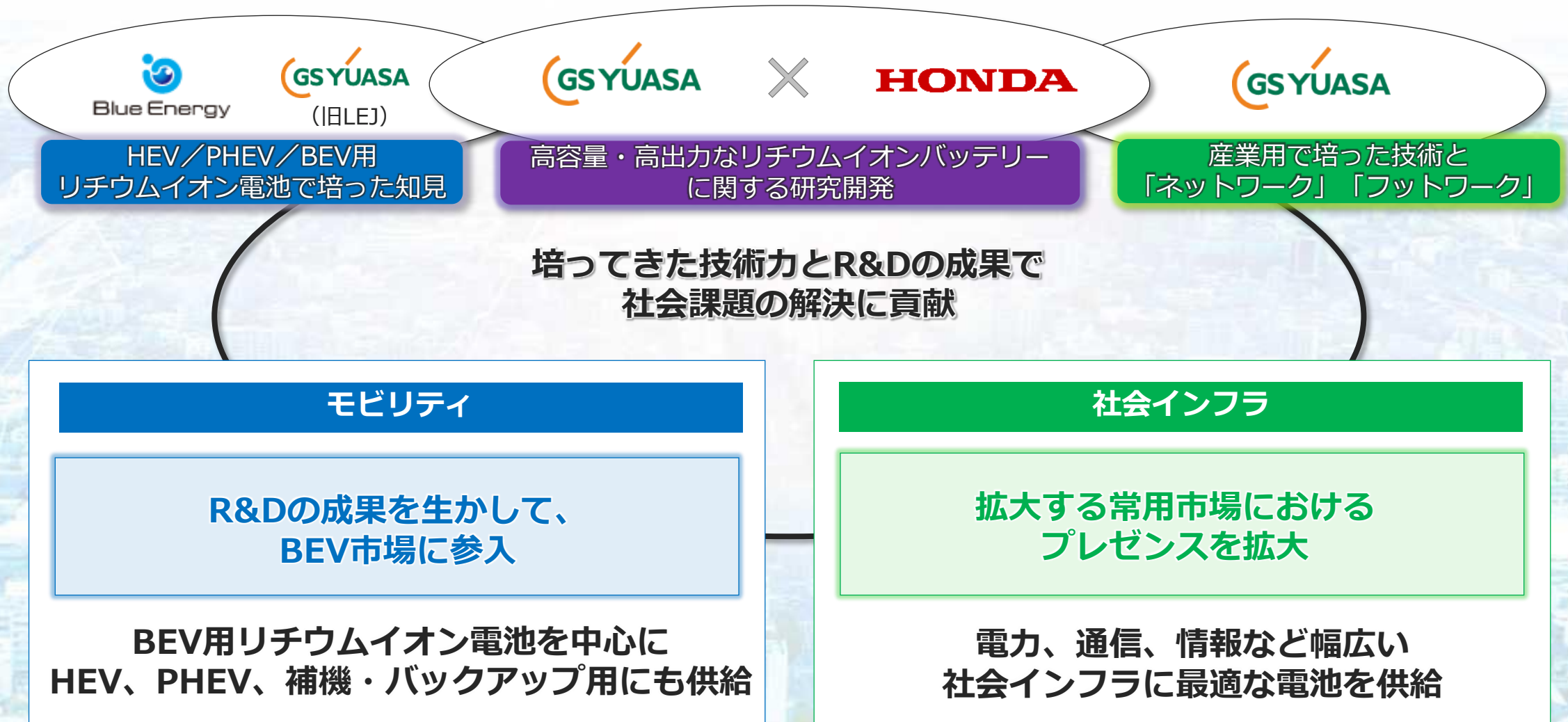
GS YUASAは、4つの『Re』をキーワードにエネルギー技術の革新をすすめ、モビリティと社会インフラの成長による社会課題解決に貢献し、持続可能な社会と人びとの快適な生活環境を実現します。



4. Vision 2035 の達成に向けて（事業の「革新と成長」）

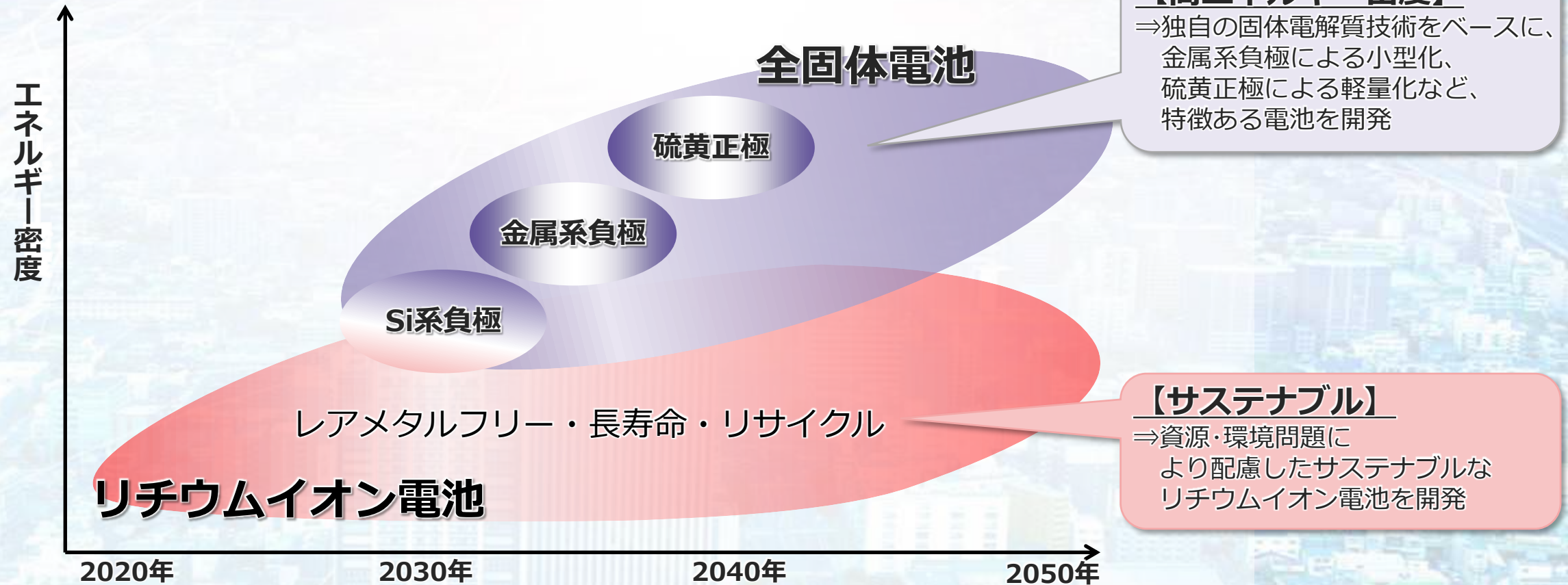


4. Vision 2035 の達成に向けて（「革新と成長」のポイント）

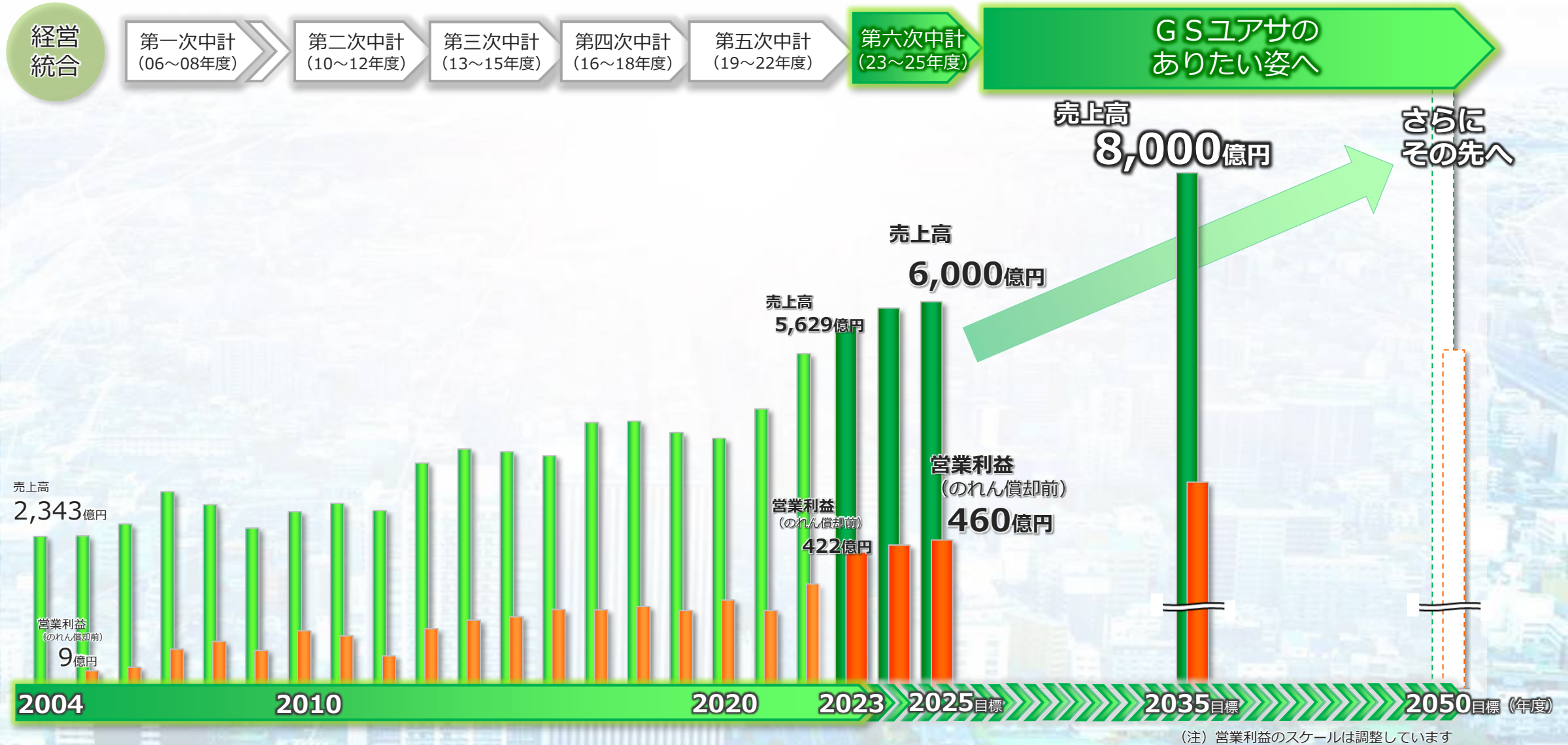


4. Vision 2035 の達成に向けて（研究開発ロードマップ）

次世代電池の研究開発・実用化により
カーボンニュートラル実現に貢献します

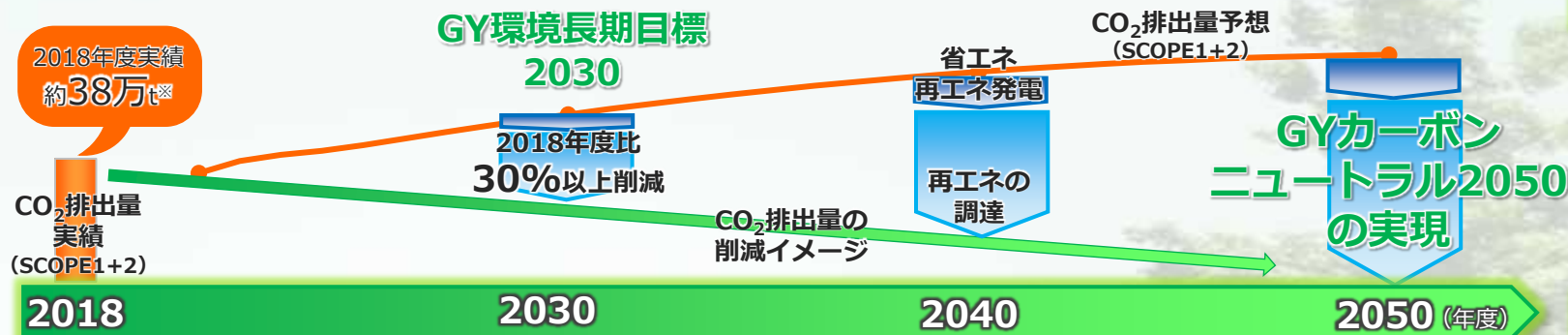


4. Vision 2035 の達成に向けて（事業の成長ストーリー）



5. GYカーボンニュートラル2050

カーボンニュートラルの実現と環境配慮製品によるCO₂削減で
地球環境と社会に貢献していきます



省エネルギー対策の推進

- ①省エネルギー対応設備の導入
- ②効率的な充電処方の展開、新規開発

再生可能エネルギー発電の推進

- ①国内外の全事業所における導入の最大化
- ②自社製品（ESSなど）の導入や実証実験の実施

再生可能エネルギーの調達

- ①再生可能エネルギー由来の電力購入
- ②再エネ証書の調達

環境配慮製品の販売によるCO₂削減への貢献

- HEV/PHEV/BEV用リチウムイオン電池
- アイドリングストップ（ISS）車用鉛蓄電池
- パワーコンディショナ/産業用リチウムイオン電池 など



製品による
さらなる
CO₂削減貢献へ

製品による
CO₂削減貢献
2021年度
800万トン以上

※ GSユアサグループのCO₂排出量集計基準を変更し、2018年度は再度第三者検証を受けています

- ① 環境省、IEAから入手した2018年の排出係数を使用して再計算
- ② 算定基準として支配力基準を採用し、直接影響を及ぼすことができる連結子会社を算定対象

第六次中期経営計画（2023～2025年度）の進捗

1. 第六次中期経営計画 方針と施策

第六次中期経営計画 方針

Vision 2035 で描くありたい姿実現に向けた変革のための土台作りの期間と位置づけ、事業構造変革に向けた諸施策を実行します。

実行施策

① BEV用電池開発

施策

- Hondaとの合併会社を活用した高容量・高出力なリチウムイオン電池開発
- モビリティ・社会インフラビジネス拡大のためのBEV用電池生産／供給体制整備

② 既存事業の収益力強化

施策

- 徹底した付加価値創出と収益性改善
- 国内産業電池電源事業における圧倒的な優位性による利益の最大化
- 中国事業見直しを含む地域戦略の転換、主要拠点へのリソース集中と利益の最大化

③ DX／新規事業

施策

- 事業構造転換を可能にするDX推進
- 社会課題解決に貢献する新規事業創出

2. 第六次中計の進捗

	2023 年度 実績	第六次中計 2025 年度目標 (2023.4当初目標)
売上高	5,629 億円	6,100 億円以上
のれん等償却前営業利益 (営業利益率)	422 億円 7.5 %	410 億円以上 6.7 %以上

第六次中計の取り組み

- 自動車電池、産業電池電源を中心とした既存事業の稼ぐ力の強化
- 選択と集中による事業ポートフォリオの見直し（中国事業の譲渡など）
- BEV事業を中心とした成長分野の戦略実行（Honda・GS Yuasa EV Battery R&D設立、土地取得など）

3. 経営目標

第六次中期経営目標（2025年度 目標）

		2023 年度 実績	2024 年度 予想	第六次中計 2025 年度目標 2024.7修正目標
売上高		5,629 億円	5,900 億円	6,000 億円以上
のれん等償却前営業利益 (営業利益率)		422 億円 7.5 %	445 億円 7.5 %	460 億円以上 7.7 %以上
ROE（自己資本利益率）		11.6 %	8 %	8 %以上
ROIC（投下資本利益率）		13.7 %	12.5 %	10 %以上
総還元性向		20.6 %	26.5 %	30 %以上
前提条件	国内鉛建値（万円／t）	37.34 万円／t	40.5 万円／t	37.2 万円／t
	LME（US\$／t）	2,121 US\$／t	2,200 US\$／t	2,100 US\$／t
	為替（円／US\$）	145.31 円／US\$	155.0 円／US\$	145.0 円／US\$

（注1）上記指標はのれん等償却前利益（営業利益・当期純利益）に対するものです。

（注2）ROICは、のれん等償却前営業利益（税前）÷投下資本（固定資産（のれん等除く）＋運転資本）で算出。投下資本は期首と期末の平均値です。

中計の見通し

- 自動車電池、産業電池電源を中心に大幅な売価是正が進み、堅調を維持
- 円安の影響もあり鉛価格は高止まりを想定
- 円安に伴う原材料価格、人手不足に伴う人件費などのコスト高騰
- EV化の潮流変化、欧米を中心としたHEVの見直し

4. セグメント別業績

(億円)

		2023 年度 実績		2024 年度 予想		第六次中計 2025 年度目標				増減 ((B)-(A))	
						2023.4当初目標 (A)		2024.7修正目標 (B)			
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	940	81 (8.6)	1,000	85 (8.5)	1,000	70 (7.0)	1,000	90 (9.0)	±0	+20 (+2.0)
	海外	2,529	151 (6.0)	2,590	175 (6.8)	2,400	170 (7.1)	2,600	170 (6.5)	+200	±0 (△0.6)
産業電池電源		1,097	132 (12.0)	1,200	135 (11.3)	1,400	110 (7.9)	1,200	130 (10.8)	△200	+20 (+2.9)
車載用リチウムイオン電池		848	26 (3.1)	900	20 (2.2)	1,100	60 (5.5)	1,000	50 (5.0)	△100	△10 (△0.5)
特殊電池およびその他		215	32 (14.9)	210	30 (14.3)	200	0 (-)	200	20 (10.0)	±0	+20 (+10.0)
合計		5,629	422 (7.5)	5,900	445 (7.5)	6,100	410 (6.7)	6,000	460 (7.7)	△100	+50 (+1.0)

主な利益修正の理由

- 自動車電池・産業電池電源は売価見直しの影響を反映
- 産業電池電源は常用分野で好調な需要環境を加味
- 特殊電池およびその他は管理部門経費の見直しを反映

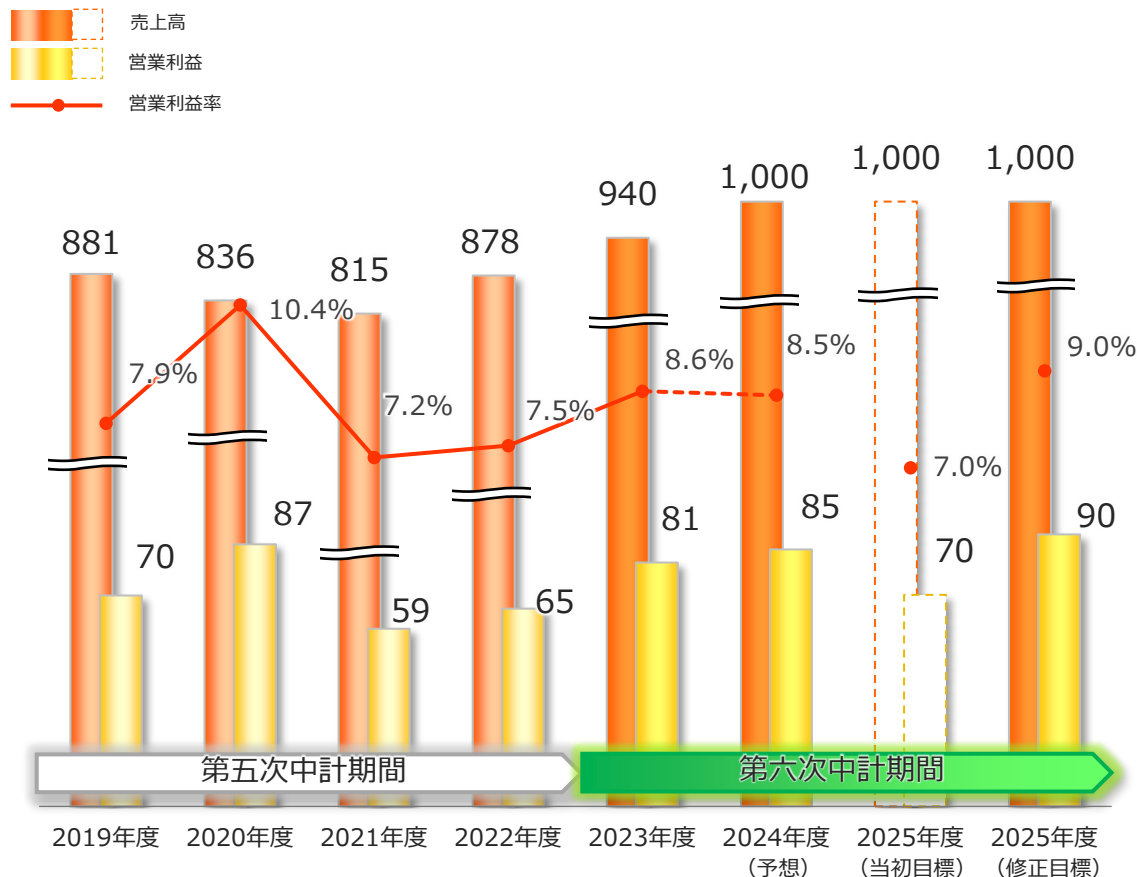
(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

<前提条件>	2023 年度 実績	2024 年度 予想	2025 年度 当初目標 (A)	2025 年度 修正目標 (B)	増減 ((B)-(A))
国内鉛建値 (万円/t)	37.34	40.5	34.2	37.2	+3.0
LME (US\$/t)	2,121	2,200	2,000	2,100	+100
為替 (円/US\$)	145.31	155.00	140.00	145.00	+5.00

4. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率 (億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

今後の取り組み

➤[生産]

BCPに対応した最適生産・安定供給体制の整備

➤[販売]

新車向け・補修向けともに更なる収益力の強化に向けた取り組みの継続

SWOT分析

強み ・新車対応で培われた技術・品質
・国内No.1シェアのブランド力

弱み ・新車物量の変動による生産影響

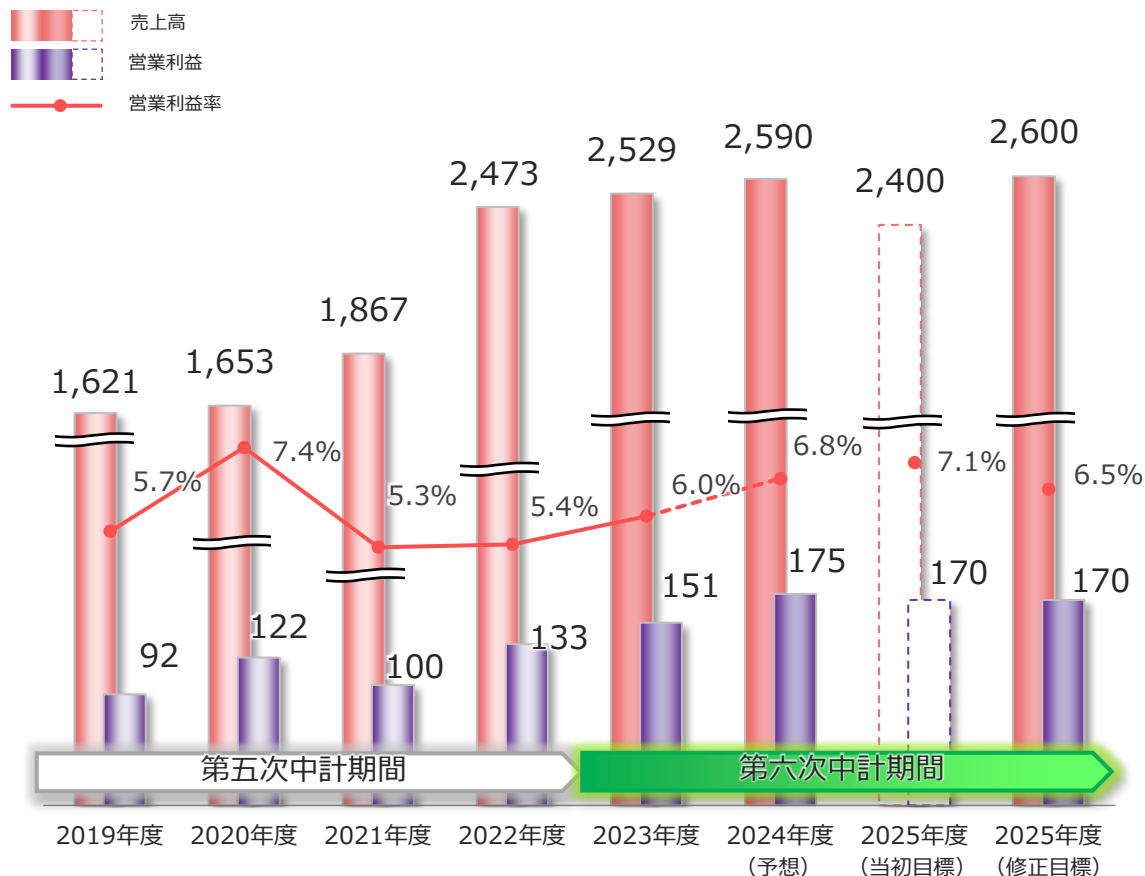
機会 ・高付加価値製品市場の拡大

脅威 ・コモディティ化による価格競争
・環境対応によるコストアップ

4. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率 (億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

今後の取り組み

- **[戦略拠点（東南アジア・欧州・豪州）]**
リソースの集中による経営基盤の強化と更なる収益性の向上
- **[その他拠点]**
中国拠点の持分法化に続く、選択と集中に基づいた戦略を推進

SWOT分析

強み	- 高い技術と品質 - アセアンNo.1シェア/ブランド力	弱み	- リソースの分散 - 無拠点エリアでの販売力
機会	- 新興国のモータリゼーション - 補機用市場の拡大	脅威	電動化による始動用の減少

4. セグメント別業績（自動車電池）

自動車電池事業の戦略



欧州地域

□ トルコ拠点

高付加価値製品を中心とした商品ミックスを形成し、トルコリラ安を背景に、欧州を中心とした周辺地域への輸出拠点として販売拡大



日本

□ 新車向けビジネスの改善

新車向け適正価格構築による収益性の向上

□ BCPに対応した

最適生産・安定供給体制の整備

国内生産拠点の整備による相互補完体制の構築を進める



東南アジア

□ タイ拠点

自動車用電池の中核拠点として、ブランド・商品力を生かして高付加価値製品を拡販



生産
物量

2023年度
500万個／年間

600万個／年間
体制に向けた整備

□ インドネシア拠点

二輪用電池の中核拠点として、補修・輸出向け電池の拡販強化による利益率改善を進める

□ ベトナム拠点

省人化設備導入による生産性向上と営業体制の見直しによる販売拡大

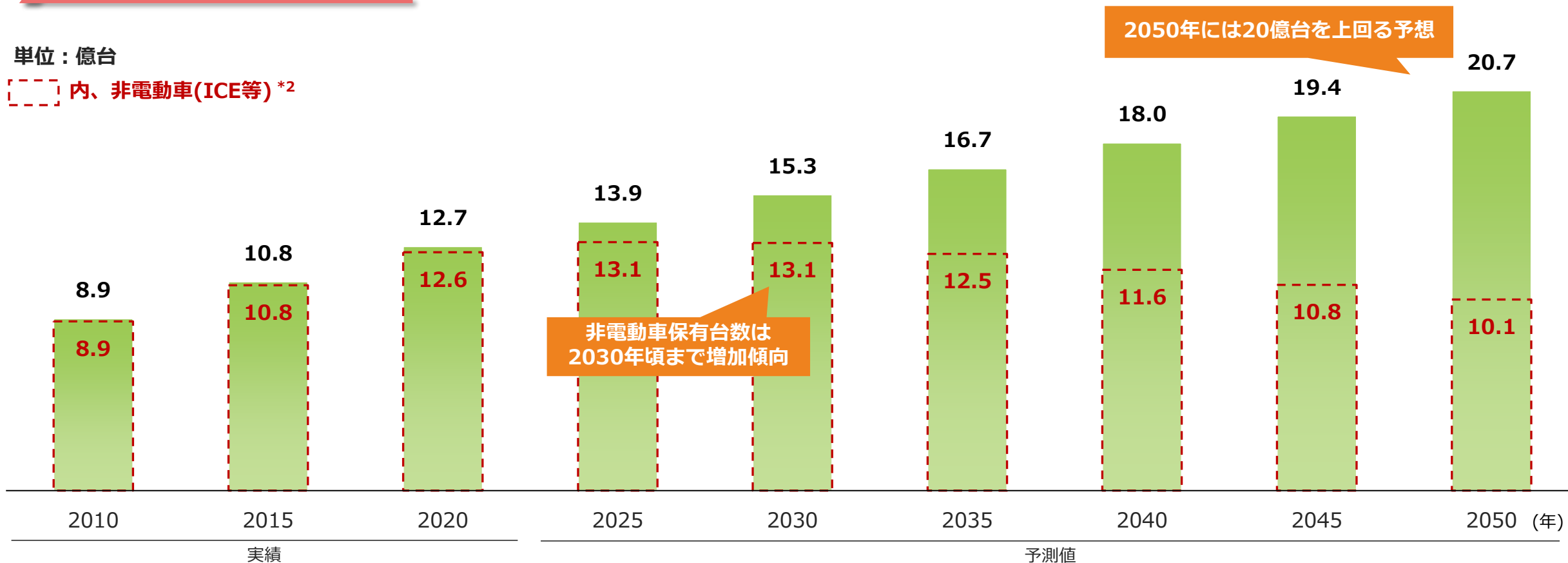
4. セグメント別業績（自動車電池）

自動車電池事業の戦略

優位なポジショニングをもつ鉛蓄電池事業は今後も補修用を中心に安定したCFを創出する見込み

単位：億台

内、非電動車(ICE等) *2



【鉛蓄電池需要】 ICE補修用 + 電動車の補機用

(注) グラフにおける電動車はHEV、PHEV、BEV含む

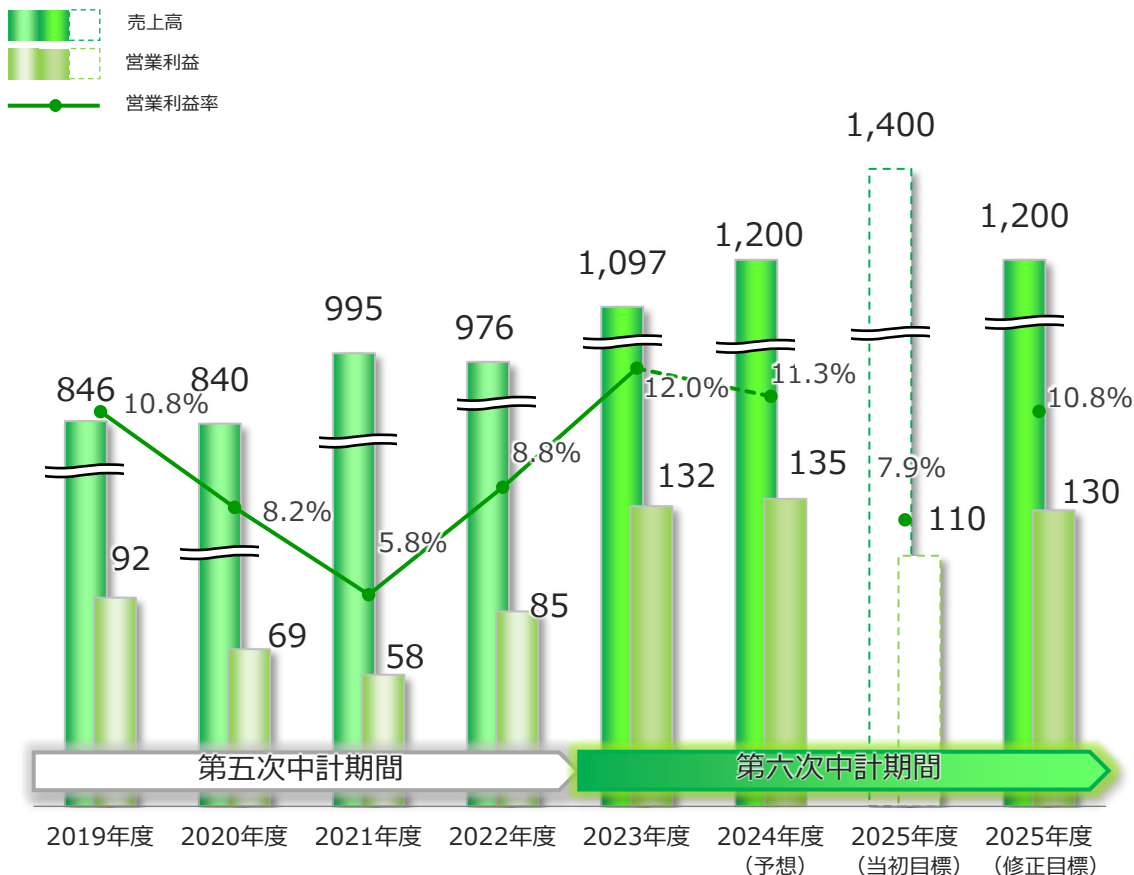
出所: Wood mackenzie 「No. of Road Vehicles (Car Parc)」 (2023年10月10日時点)より当社作成

4. セグメント別業績（産業電池電源）

産業電池電源

売上高・営業利益・利益率

（億円）



今後の取り組み

- **【非常用（国内）】**
原材料価格やインフレ影響の売価反映による収益性の向上
- **【常用（国内）】**
旺盛な需要に対応するための生産能力の確保とPCS併設型ESSによる販売拡大
- **【フォークリフト用（グローバル）】**
京都事業所のフォークリフト用新工場の稼働による効率的な生産体制の確立

SWOT分析

強み ・ 国内で高いプレゼンス

弱み ・ 海外は低シェア

機会 ・ 再エネ市場の拡大

脅威 ・ 再エネ市場での海外競合の進出

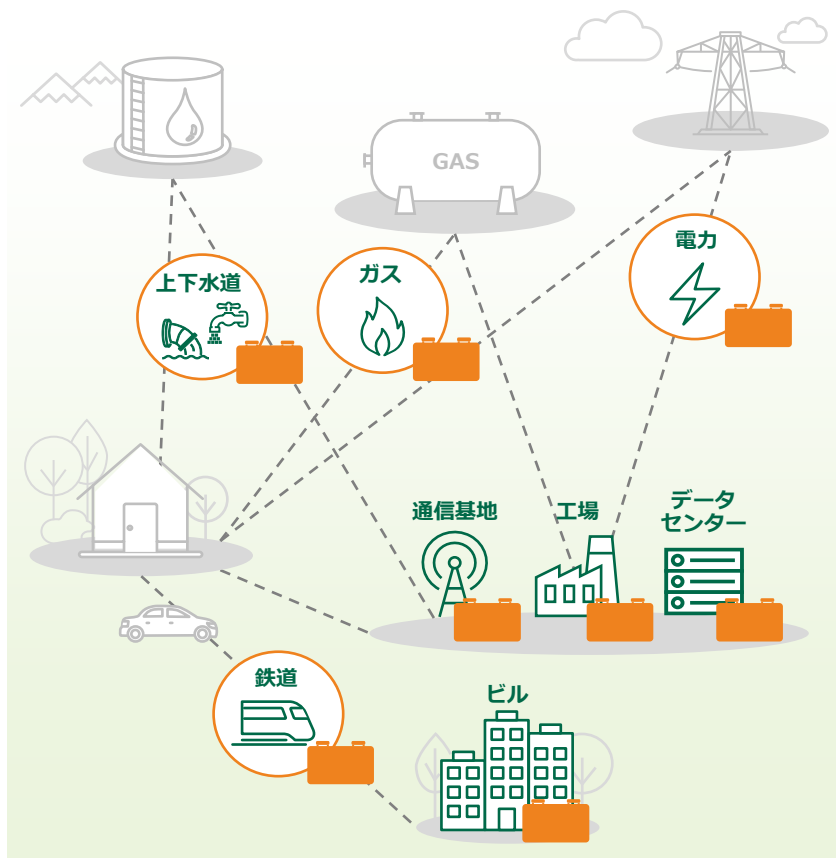
（注）2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度は、変更後のセグメントにより記載しております。

4. セグメント別業績（産業電池電源）

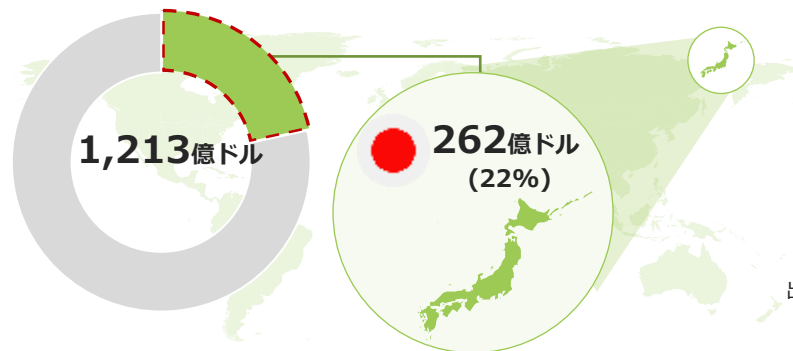
非常用分野の戦略

国土強靱化政策およびIoTの普及によるデータセンター市場規模増加により非常用電池電源需要は更に拡大

社会インフラを支える非常用電池電源領域（イメージ）



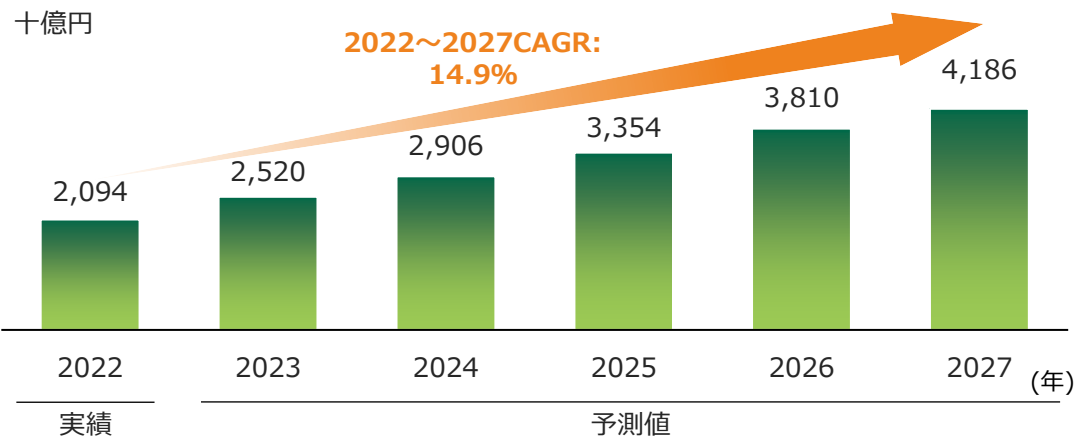
2019年以降に発生した自然災害被害額



国土強靱化に向けて
非常用電池電源は
更なる需要拡大
を見込む

出典：内閣府
「令和2年版防災白書」より当社作成

国内データセンターサービス市場規模



出典：IDC Japan「国内データセンターサービス市場予測、2023年～2027年」より当社作成

4. セグメント別業績（産業電池電源）

常用分野の戦略

弥藤吾蓄電所イメージ
(埼玉県熊谷市)



2024年度も
常用分野は
引き続き好調

- 事業主：
坂東蓄電所1号合同会社
- 稼働：2025年2月
- 容量：7.46MWh

角子原パワーストレージステーション完成イメージ
(大分県大分市)



- 事業主：
株式会社ニジオ
- 稼働：2026年度（予定）
- 容量：50MWh

作成：千代田化工建設株式会社
(Google Map および国土地理院の地図データを使用)

□ 常用向けリチウムイオン電池の生産拡大

旧LEJ（現GSユアサ）の生産能力を2023年度に増強

27年度に稼働するBEV生産能力も需要旺盛な**常用分野に活用**

常用分野（販売物量の拡大）

2023年度
約100万セル

2024年度
約**130万セル**納入（目標）

2027年度～
BEV生産能力を活用し
さらに拡大

再エネ向けリチウムイオン電池の開発と拡大

第一世代
(LEPS-1)

第二世代
(LEPS-2)

第三世代（27年度～）

世界最大規模の蓄電池設備への納入を皮切りに
拡大する需要に対応し、生産能力も増強



世界最大規模の蓄電池設備
(北海道豊富町)への納入

出典：北海道北部電力送電（株）
(<https://www.hokubusouden.com/progress/869/#contents>)

ENEOSより国内最大規模の
電力系統用蓄電池設備を受注



ENEOS室蘭事業所
(建設段階)



大阪国際石油精製 千葉製油所
(完成イメージ)

Hondaとの研究開発の
成果を活用

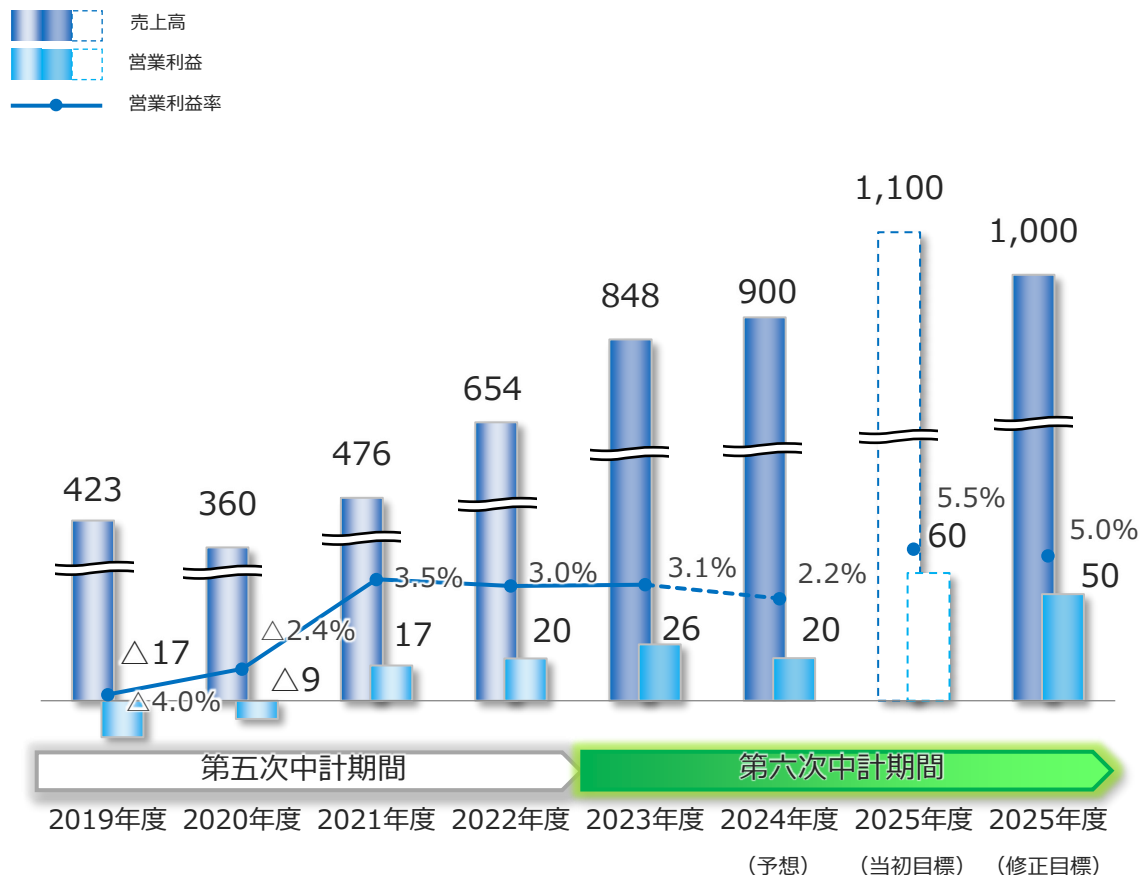
拡大する
カーボンニュートラル
需要に対応

4. セグメント別業績（車載用リチウムイオン電池）

車載用リチウムイオン電池

売上高・営業利益・利益率

（億円）



今後の取り組み

- **[HEV]**
 - ・ 原材料高騰やインフレなど状況に応じた売価見直し
 - ・ 生産能力に合わせた設備の安定稼働と歩留り改善
- **[PHEV/ESS]**
 - ・ 生産能力拡大による需要対応
- **[BEV]**
 - ・ 2027年度工場稼働開始に向けた準備

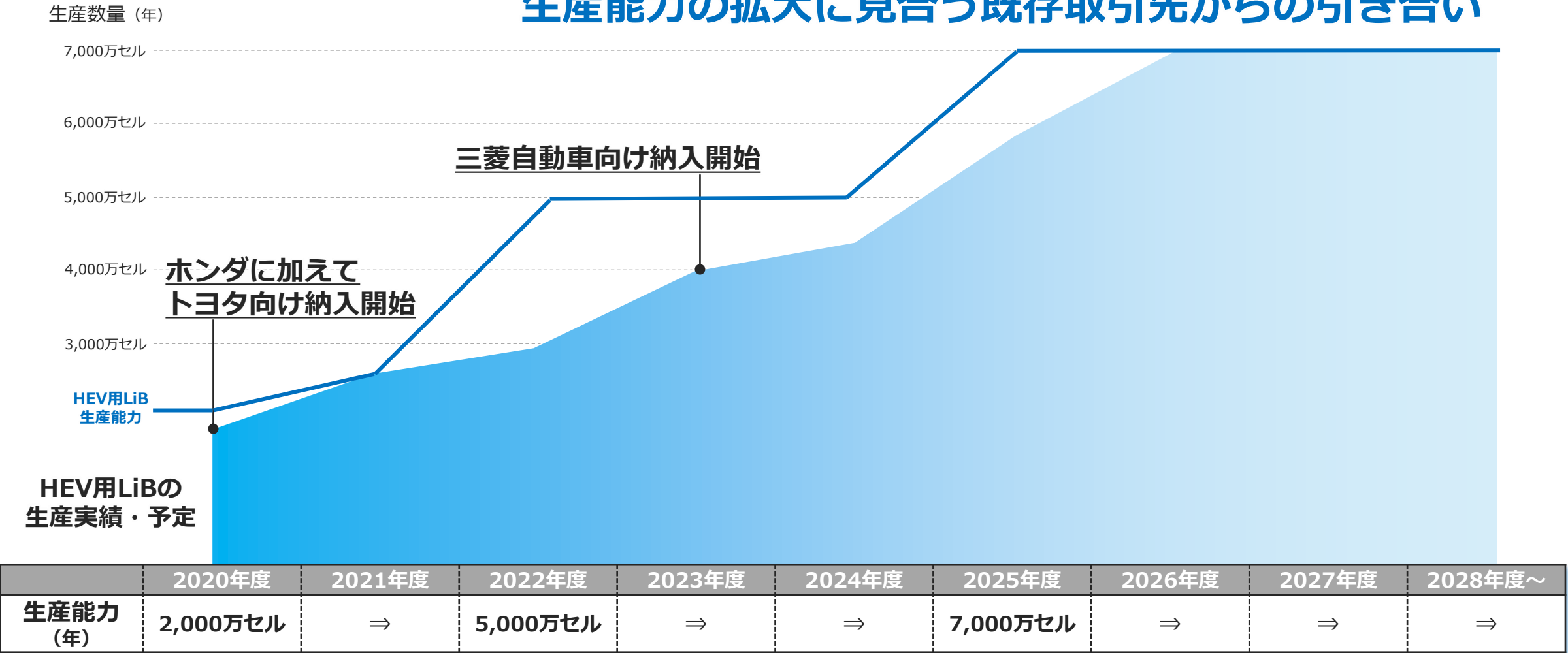
SWOT分析

強み	・ 日系自動車メーカーとの関係 ・ BEC/LEJの高い稼働	弱み	・ 中韓メーカーと比べた規模 ・ 生産拠点の国内集中
機会	・ 日系自動車メーカーのHEV拡大 ・ BEV電池の需要拡大	脅威	・ 原材料の安定調達への懸念 ・ 法規制 ・ 海外勢のシェア独占

4. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

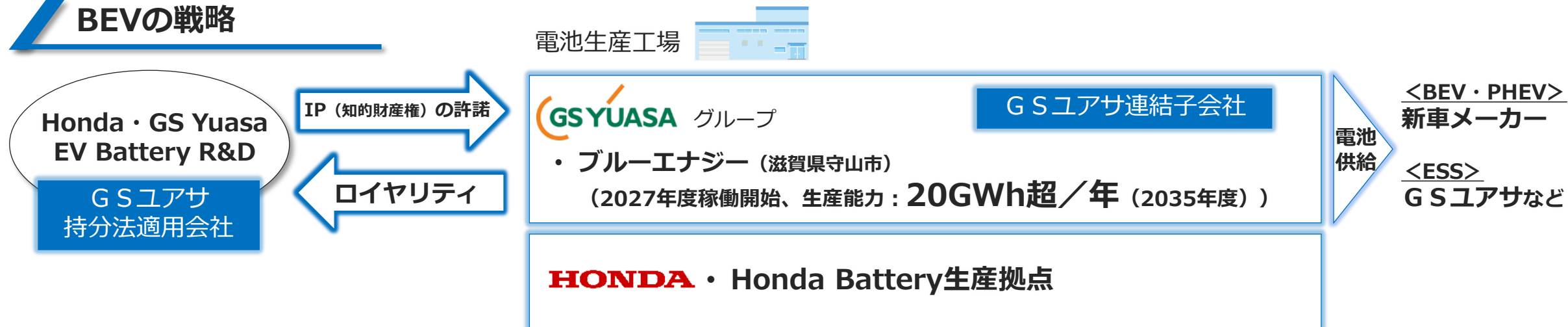
HEVの戦略

生産能力の拡大に見合う既存取引先からの引き合い

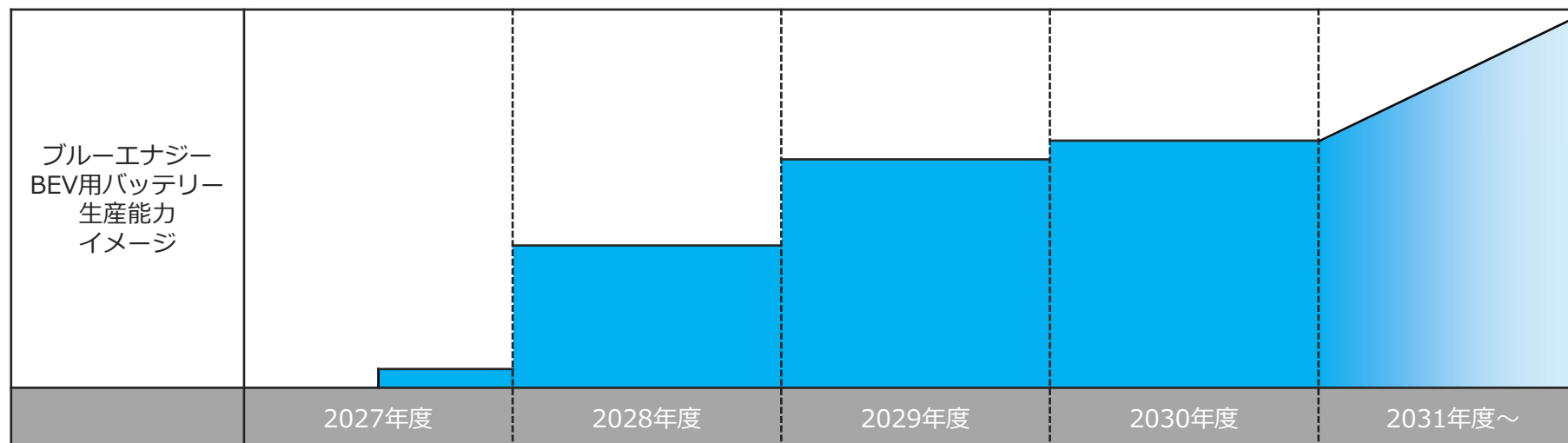


4. セグメント別業績（車載用リチウムイオン電池）

BEVの戦略



GS YUASA グループの生産能力イメージ



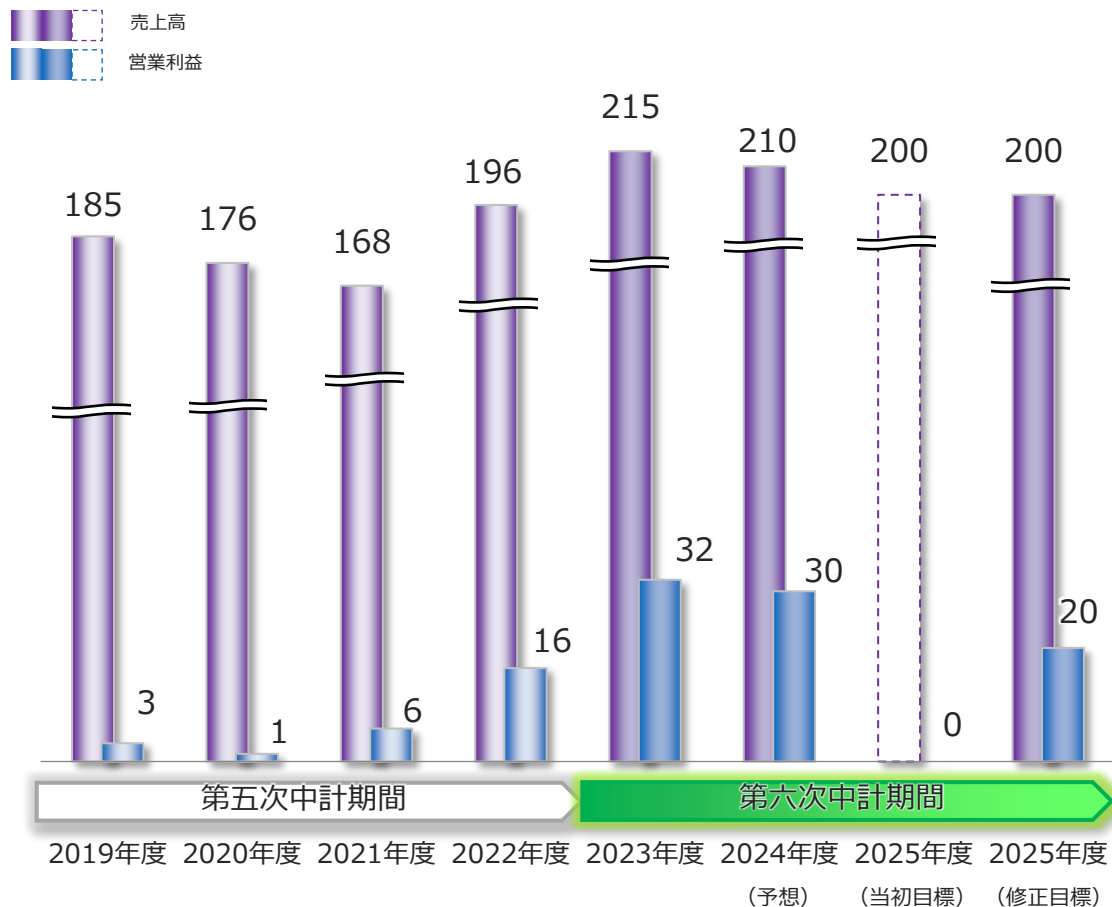
20GWh超／年
(2035年度)

4. セグメント別業績（特殊電池およびその他）

特殊電池およびその他

売上高・営業利益

（億円）



今後の取り組み

- **[潜水艦用リチウムイオン電池]**
適正な利益確保と電池の交換需要に向けた準備
- **[その他特殊電池]**
防衛力向上に向けた増産対応

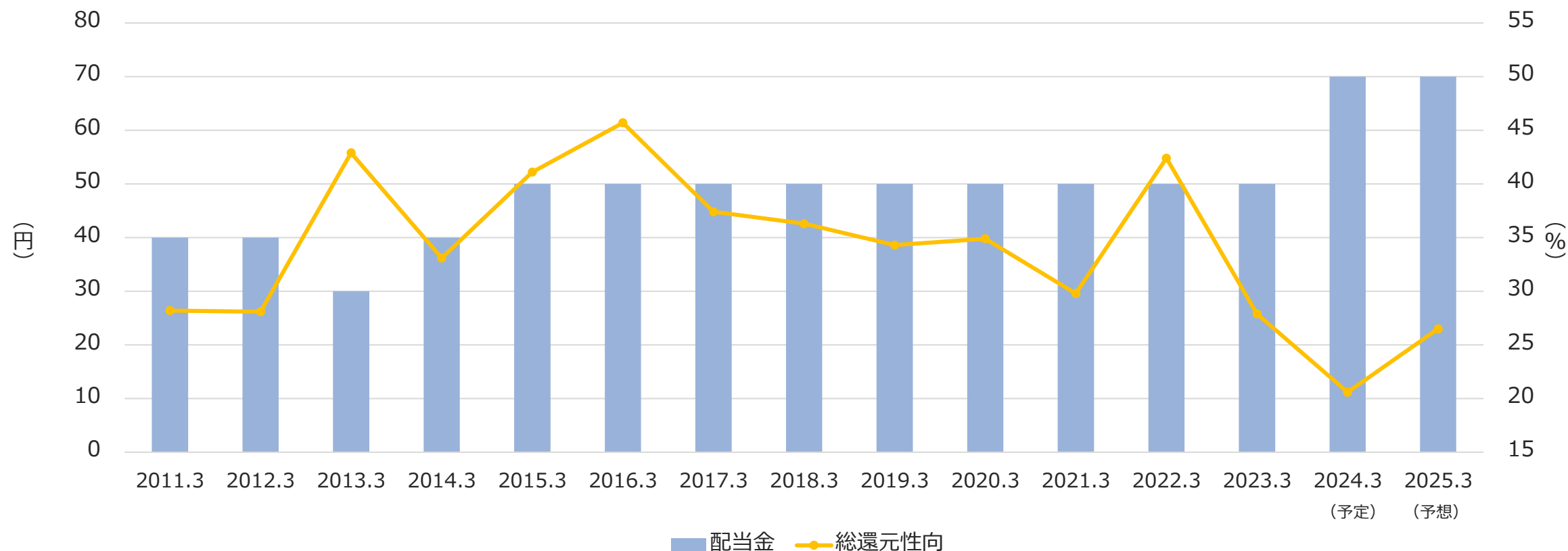
SWOT分析

強み	・国内唯一の特殊電池メーカー ・高い技術力と信頼性	弱み	・デジタル化の遅れ ・設備老朽化
機会	・防衛装備移転三原則の策定 ・宇宙など新規市場の拡大	脅威	・開発難易度アップによるコスト高 ・社会的責任の増加

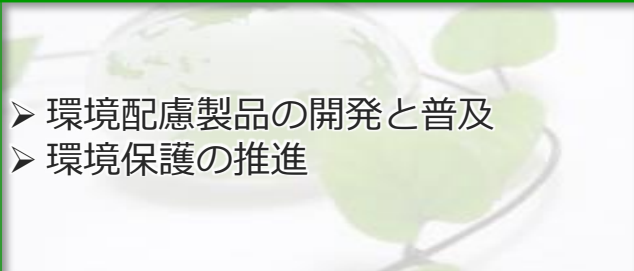
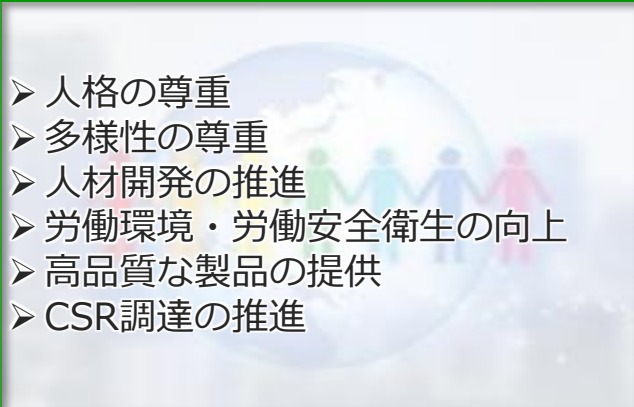
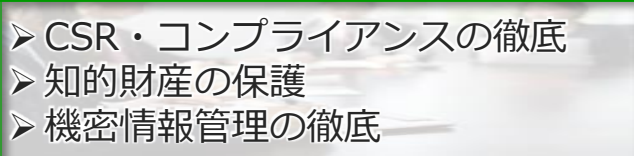
(注) 2023年度より、従来「産業電池電源」に含まれていた一部の連結子会社について、「特殊電池およびその他」に変更しております。2022年度は、変更後のセグメントにより記載しております。

5. 株主還元

当社は株主様に対する還元を経営における最重要課題と認識し、第六次中期経営計画でも総還元性向（配当と自己株式による還元割合）30%以上を目標として設定し、2023年度は20円増配の年間70円の配当を実施いたしました。2024年度も年間70円の配当を予想しています。



6. サステナビリティへの取り組み（マテリアリティ）

マテリアリティ		主な活動内容・目標
➤ Environment – エネルギー・デバイス・カンパニーとして持続可能な地球環境への貢献		
E	 ➤ 環境配慮製品の開発と普及 ➤ 環境保護の推進	➤ CO₂排出量 15%以上削減（2018年度比） ➤ 水使用量 15%以上削減（2018年度比） ➤ 再生鉛使用率 70%以上 ➤ 環境配慮製品売上比率 45%以上
➤ Social – 人権の尊重と社会への貢献		
S	 ➤ 人格の尊重 ➤ 多様性の尊重 ➤ 人材開発の推進 ➤ 労働環境・労働安全衛生の向上 ➤ 高品質な製品の提供 ➤ CSR調達の推進	➤ 人権教育の推進と人権リスク管理の徹底 ➤ ダイバーシティ&インクルージョンの推進 ➤ ワークライフバランスと健康経営の推進 ➤ 人材育成プログラムの推進 ➤ 労働安全衛生リスクマネジメントの推進 ➤ 製品安全管理の強化、品質改善や品質コミュニケーション強化の推進 ➤ 責任ある鉱物資源調達への対応とサプライチェーンにおけるCSRリスクの管理
➤ Governance – 公正、透明、迅速なグループ全体のガバナンスの推進		
G	 ➤ CSR・コンプライアンスの徹底 ➤ 知的財産の保護 ➤ 機密情報管理の徹底	➤ コンプライアンス教育の推進と法令情報の周知・徹底 ➤ 特許侵害の回避徹底と模倣品の排除 ➤ セキュリティ対策の推進、情報セキュリティ教育の推進

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

コーポレート室（広報） 青木 裕・西島 務・田中 祥太・神田 文

Tel : 075-312-1214

<https://www.gs-yuasa.com/jp>

株主・投資家情報サイトの「IRメール配信登録」から登録できます。
決算や説明会、ニュースリリースなど当社のIRに関する有益な情報を発信しています。

ホーム > 株主・投資家情報

株主・投資家情報

Investor Relations



The screenshot displays the '株主・投資家情報' (Investor Relations) page. At the top, there's a banner for the '2025年3月期 第3四半期決算' (FY2025 Q3 Results) with a schedule of events. Below this, a list of '最新IR資料' (Latest IR Materials) is shown, including financial statements and presentation materials. On the right side, there's a section for '現在の株価' (Current Stock Price) showing a price of 2,486.0 yen and a daily change of -21.5 (-0.86%). Below the stock price, there's a list of links for 'IRカレンダー' (IR Calendar), 'IR資料一式ダウンロード' (Download all IR materials), 'IRメール配信登録' (IR email distribution registration), and '用語集' (Glossary). The 'IRメール配信登録' link is highlighted with a red box and a red arrow pointing to a callout box.

2025年3月期
第3四半期決算

＜資料掲載スケジュール＞
・決算短信：2/5(水)15:00
・決算説明会資料：2/5(水)15:00
・決算説明会動画：2/10(月)15:00

現在の株価 (リアルタイム) 証券コード：6674 チャートへ

2,486.0 円 【前日比】
-21.5(-0.86%)

01/15 13:59現在

11/1 12/2 1/5

2,900
2,800
2,700
2,600
2,500
2,400

IRカレンダー

IR資料一式ダウンロード

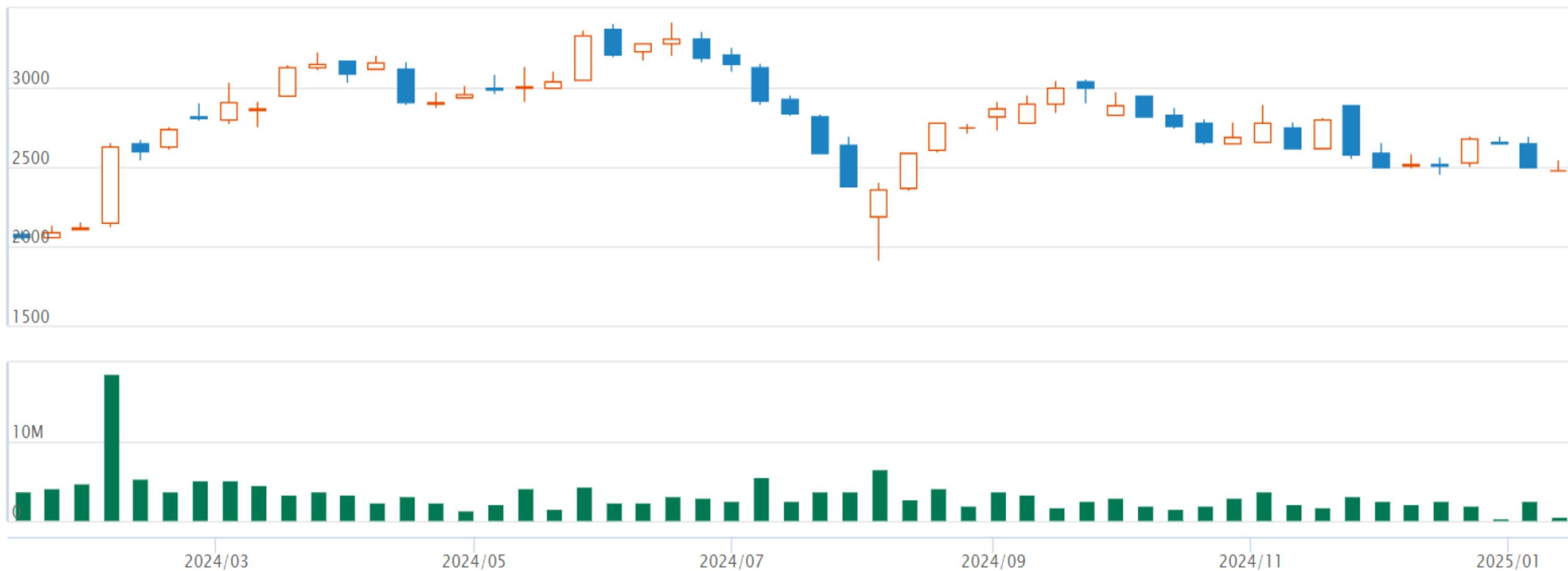
IRメール配信登録

用語集

IRサイト内検索

こちらから
ご登録できます。

【参考】株価推移



足元情報 (1月14日時点)
終値 : 2,507.5円 (+8、+0.32%)
始値 : 2,480円 高値 : 2,510.5円 安値 : 2,472.5円 前日終値 : 2,499.5円 出来高 : 347,400

【参考】2024年度業績予想



	2023 年度 実績	2024 年度 予想	増減	(前期比)	(億円)	
					[参考] 上期実績 (4-9月)	
					2023年度 上期実績	2024年度 上期実績
売上高	5,629	5,900	+271	(+4.8%)	2,568	2,645
営業利益 (利益率)	416 7.4%	440 7.5%	+24 +0.1P	(+5.8%)	127 4.9%	157 5.9%
のれん等償却前営業利益 (利益率)	422 7.5%	445 7.5%	+23 +0.0P		129 5.0%	161 6.1%
経常利益	440 7.8%	440 7.5%	+0 △0.3P	(+0.0%)	120 4.7%	145 5.5%
親会社株主 当期純利益 (利益率)	321 5.7%	260 4.4%	△61 △1.3P	(△18.9%)	60 2.3%	94 3.6%
のれん等償却前親会社株主 当期純利益 (利益率)	326 5.8%	265 4.5%	△61 △1.3P		62 2.4%	97 3.7%
EPS (1株当たり当期純利益)	369.74 円	259.21 円	△110.53 円		74.06 円	93.81 円
年間配当金 (円/株)	70 円 (通期)	70 円 (予定)	±0 円		15 円 (中間)	20 円 (中間)
総還元性向	20.6 %	26.5 %	+5.9 P		-	-
ROE (自己資本当期純利益率)	11.6 %	8.0 %	△3.6 P		-	-
ROIC (投下資本利益率)	13.7 %	12.5 %	△1.2 P		-	-
国内鉛建値 (万円/t)	37.34 万円/t	40.5 万円/t	+3.16 万円/t		36.84 万円/t	38.59 万円/t
L M E (US\$/t)	2,121 US\$/t	2,200 US\$/t	+79 US\$/t		2,144 US\$/t	2,104 US\$/t
為替 (円/US\$)	145.31 円/US\$	155.00 円/US\$	+9.69 円/US\$		142.61 円/US\$	152.45 円/US\$

(注1) ROEおよび総還元性向は、のれん等償却前当期純利益に対するものです。

(注2) ROICは、のれん等償却前営業利益÷投下資本（固定資産（のれん等除く）+運転資本）で算出。投下資本は期首と期末の平均値。

【参考】2024年度業績予想（セグメント別）

(億円)

		2023 年度 実績		2024 年度 予想		増減		[参考] 上期実績 (4-9月)			
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)	2023 年度 上期実績		2024 年度 上期実績	
自動車 電池	国内	940	81 (8.6)	1,000	85 (8.5)	+60	+4 (△0.1)	411	22 (5.3)	436	34 (7.7)
	海外	2,529	151 (6.0)	2,590	175 (6.8)	+61	+24 (+0.8)	1,254	76 (6.1)	1,275	94 (7.4)
産業電池電源		1,097	132 (12.0)	1,200	135 (11.3)	+103	+3 (△0.7)	395	14 (3.5)	462	39 (8.5)
車載用 リチウムイオン電池		848	26 (3.1)	900	20 (2.2)	+52	△6 (△0.9)	406	7 (1.8)	363	△18 (△4.8)
特殊電池およびその他		215	32 (14.9)	210	30 (14.3)	△5	△2 (△0.6)	102	11 (10.3)	109	12 (10.7)
合計		5,629	422 (7.5)	5,900	445 (7.5)	+271	+23 (+0.0)	2,568	129 (5.0)	2,645	161 (6.1)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。